かながわ 経済

マウス滑らか 金属製パッド

伊勢原の加工会社

eスポ拠点開設 体験も

コンピューターゲームの腕を競うeスポーツ人気が高まる中、国内初の「金属製マウスパッド」を手がける伊勢原市鈴川の金属加工会社、竹内型材研究所（内山真司社長）が昨年、同市内にeスポーツの拠点施設を開設した。製造現場の見学のほか、製品の体験もできる。（中村良平）

格闘ゲームなどのキャラクターの素早い動きは、マウスパッド上でゲーマーが扱うマウスの動き次第。高硬度素材の平面研削を得意とする同社は、プラスチック製や布製、ゴム製など一般的なマウスパッドよりも、より瞬時の反応に対応できるとして、鉄とマグネシウム合金を素材にした超平面マウスパッド「ニンジャラットマット」を2019年10月に発売した。

国内初の金属製マウスパッドと、それを使ってeスポーツを楽しむ人（伊勢原市で）

マーケティングチームのリーダー、永広知史さん(35)は「マウスパッドでなく、あえてラットマットと名付けたのは、より泥臭く野性味を出したかったから」と語る。操作性については、「従来の布製が軽自動車なら、金属マウスパッドはF1レース級の車両」と誇る。

サイズは縦30センチ、横40センチで、厚さは3ミリか5ミリ。表面のでこぼこ（高低差）を示す平面度は0・01ミリ程度と抜群に滑らかだ。鉄の6倍以上の硬度を持ち、研削液をかけて1枚磨き上げるのに8時間を要するという。

金属製マウスパッドの平面度をチェックする永広さん（左）ら（伊勢原市で）

材質や加工法、厚さなどが違う4種類を「臨」「兵」「闘」「者」と命名。忍者の〝唱え文句〟から漢字を選び、右下に十字の手裏剣マークを刻んだ。値段は1枚6万2000～8万5000円（税別）で、ネット販売で1月までに約300枚が売れた。市のふるさと納税の返礼品にもなっている。

同社は1975年に電子部品機器の精密金型部品メーカーとして東京都大田区で創業。金属製マウスパッドの人気に手応えを感じ、昨年10月、県金属プレス工業協同組合1階にショールームとラボを兼ねた拠点「ニンジャラットマットR&D ラボ」を設立した。約90平方㍍で、ゲームで金属製マウスパッドを試用することもできる。

見学は平日のみの完全予約制だが、全国からeスポーツ関連の見学や問い合わせが絶えないという。問い合わせは同ラボ（0463・20・8803）へ。

読売新聞社　無断転載禁止　2022/3/8